

は し が き

南 出 眞 助

ここに収録するのは、2004年6月11日（金）に追手門学院大学オーストラリア研究所主催、豪日交流基金資金協力で行った第2回 Teach Australia —— オーストラリアを教える先生のための実践ワークショップ —— の講演集である。

このワークショップは、日本でオーストラリアに関する教育や留学指導に携わる大学・高校の教職員、企業の派遣担当者などを対象に、オーストラリアの「何を」「いかに」教えるかという問題について、オーストラリアから招いた講演者らを中心に討論するものである。第1回目は2002年11月に豪日交流基金が主催し、オーストラリア大使館で行われた。第2回目は全国公募となり、2003年9月に本研究所の申請が採択された。実施計画の具体化にあたっては、豪日交流基金事務局長レオニー・ボクステル氏および久松晶子氏と意見交換を重ねた。セッションは2004年6月11日に本学で行い、翌12日午前には国立民族学博物館松山利夫教授の案内により、同館のアボリジナル展示を見学した。なお12日午後および13日には、同館でオーストラリア学会が開催された。

セッションは、メルボルン大学ケイト・ダリアンスミス助教授（文化社会史）による基調講演「現代オーストラリアの大衆文化」から始めた。午後の分科会A「オーストラリア経済をどう教えるか —— 経済成長の背景を理解させる教授法 ——」では、本学遠山嘉博教授（経済政策）による「発展するオーストラリア経済と日本のかかわり —— オーストラリアのよりよき理解と適切な教え方のために ——」、およびディーキン大学ピーター・ガン助教授（労使関係論）による「オーストラリアの経済実績とその背景 —— 制度の役割と制度の変化 ——」の講演が行われた。司会は大阪大学松繁寿和助教授、追手門学院大手前中・高校西浦誠教諭が担当した。

分科会B「オーストラリアの社会・生活を教えるには —— 映像を使つての教授法 ——」では、再びケイト・ダリアンスミス助教授による「オーストラリア映画に描かれたアボリジナル像」、およびグリフィス大学のマルコム・アレキサンダー上級講師（比較社会学）による「掘出し物 —— 国内向け映画を使つてオーストラリアを教える ——」の講演が行われた。司会は桜美林大学福嶋輝彦教授、同志社大学川口章教授が担当した。その後、全体会として合流し、本学山中雅夫教授の司会で総括討論を行った。

当日は平日にもかかわらず、北海道から九州まで約150名におよぶ参加者を数え、時間いっぱいまで熱心な討論が続き、懇親会も100名を超える盛会であった。上記の各機関・各氏による多大な協力をはじめとして、オーストラリア学会、オセアニア教育学会、大洋州経

済学会，オーストラリア・ニュージーランド文学会，国際教育交流促進協会 A. I. E. E.，特定非営利活動法人 JAFSA（国際教育交流協議会），大阪府教育委員会，カンタス航空からも後援をいただいた。大学当局からも，予算面において便宜をはかっていただいたうえ，準備段階から多くの部局，事務職員の協力を得た。参加者も含め，Teach Australia 開催に関わったすべての方に心からお礼を申し上げたい。

なお講演集は，講演に先立って各講師が準備した原稿とその訳文（当日配布資料）であり，録音による講演記録ではない。また訳出後にも若干の原文変更があり，両者が完全に一致するものではないことをご了解いただきたい。最後に各座長の所見を収録し，行事としての記録を残すこととした。